

播磨地域の4市でトモンハナバチを確認

柴田 剛

播磨地域4市の6カ所でトモンハナバチ *Anthidium septemspinatum* Lepeletier, 1841 を撮影, 採集したので報告する. 全て加古川の河川敷にムラサキツメクサ (マメ科), ミドリハッカ (シソ科), ツルボ (キジカクシ科) が群生して咲いているところであった. 河川敷でこれらの花が群生しているところを丹念に探していけば, まだ多くの地点で確認できるものと思われた. 兵庫県での記録がほとんどないとのことなので, ここに報告する.

【確認情報】

1. 採集・撮影: 小野市下大部町 (加古川の河川敷) (図1)

確認年月日: 2020年7月22日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科), アレチハナガサ (クマツヅラ科)

採集: 1 個体 目撃: 2 個体

2. 採集・撮影: 小野市黍田町 (加古川の土手)

確認年月日: 2020年7月23日

訪花植物: ミドリハッカ; 別名オランダハッカ, スペアミント (シソ科)

採集: 1 個体 目撃: 5 ~ 6 個体

3. 撮影: 小野市黍田町 (加古川の土手) (図2)

確認年月日: 2020年7月28日

訪花植物: ミドリハッカ; 別名オランダハッカ, スペアミント (シソ科)

撮影: 1 個体 目撃: 2 個体

4. 採集: 加東市野村 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年7月28日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 1 個体 目撃: 2 個体

5. 採集: 加古川市尾上町養田 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年8月3日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 1 個体 目撃: 1 個体

6. 採集: 加古川市上荘町都染 (加古川の右岸側河川敷)

確認年月日: 2020年8月22日

訪花植物: ツルボ (キジカクシ科)

採集: 1 個体 目撃: 1 個体

7. 採集: 西脇市大垣内 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年8月4日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 2 個体 目撃: 2 個体



図1 兵庫県小野市下大部町, 2020年7月22日



図2 兵庫県小野市黍田町, 2020年7月28日

○参考文献

吉田浩史, 2019. 神戸市内の都市公園でトモンハナバチを目撃. きべりはむし, 42(2): 61

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

2006年に確認されていた神戸市でのセイヨウオオマルハナバチの訪花記録

池田健一

セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* (Linnaeus, 1758) はヨーロッパ原産の特定外来生物で, 日本へは1991年に静岡県農業試験場で試験導入されたのが最初で, その後, オランダ, ベルギー, イギリス, イスラエルから, 女王バチを中心とする家族であるコロニー単位で本格的に輸入され, 全国各地で作物の花粉媒介を行う園芸資材として利用されてきたものが広がっていた (自然環境研究センター, 2008). 兵庫県下では吉田 (2000) の記録がある. その他の県内の記録は鷺谷 (1997), 保全生態学研究会 (2003), 保全生態学研究会 (2005),